

令和5年度（2023年度）公共事業再評価調書

（様式3）

		基準年月日		令和5年8月1日	
調書番号	08-14	所管部	建設部	作成責任者	建設部土木局河川砂防課長 上前 孝之
				担当係	河川計画係（内）29-323

I 基本事項（基準日時点）

事業種別	大規模特定河川事業費、広域河川改修事業費（社会資本整備総合交付金）							
地区名	むかがわ 無加川	市町村名	北見市	総事業費	37,345 百万円			
負担割合	国	66.7%	道	33.3%	市町村	—	その他	—
	24,897 百万円		12,448 百万円		— 百万円		— 百万円	

事業目的・目標	●無加川は、常呂川水系常呂川に合流する一級河川で、S37年(1962年)8月の洪水により、家屋浸水など多大な被害が発生した。 ●このため、S40年(1965年)より無加川の河川改修事業に着手したが、S50年(1975年)8月に浸水被害が発生したため、S51年より支川ペンケビハウシ川の河川改修事業に着手。 ●その後も浸水被害が発生したことからH1年(1989年)に無加川の事業区間を延伸。 ●堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行い、北見市留辺薬地区などの市街地及び農地の浸水被害を防止する。				
	【アウトカム】等				
	●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある家屋数 1,082戸→0戸 ●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある農地面積 243ha→0ha				

事業概要	無加川は、常呂川合流点の上流7.2km地点から36.6kmの区間、支川ペンケビハウシ川は無加川合流点から3.3kmの区間、合計39.9kmの区間について、堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行うものである。	工事費内訳	計画流量 Q=650m ³ /s (支川Q=80m ³ /s)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
			計画延長 L=39,900m	前回評価	今回評価	増減額
			築堤工 L=30,460m	1,268	1,568	300
			掘削工 L=39,900m	8,591	12,749	4,158
			護岸工 L=41,209m	6,970	8,620	1,650
			附帯工事			
			道路橋27橋、JR橋1橋等 →道路橋29橋、JR橋1橋等	4,339	5,233	894
			測量設計費 調査・設計	3,826	5,528	1,702
			用地費及補償費 用地買収・物件補償	3,647	3,647	0
			計	28,641	37,345	8,704

総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名
		生活・安心	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服	大規模自然災害対策の推進（強靱化）

特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道強靱化計画 P28】 （河川改修等の治水対策） 河道の掘削、築堤、放水路、ダム、遊水地の整備などの治水対策について、近年の大雨災害等を勘案した重点的な整備を推進する。
	関連する指標	-

II 公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費 (a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
							22,313	7,438			
事前評価又は当初	S40 (1965)	S40 (1965)		H30 (2018)							
前回再評価	S40 (1965)	S40 (1965)	H30 (2018)	H50 (2038)		28,641	9,547		22,839	80%	
今回評価			R5 (2023)	R20 (2038)	58	37,345	12,448	1,014	26,775	72%	

変更理由・内容（概要）	(1)河床低下に伴う床止め・覆礫等対策及び護岸の根入れ長の変更による増額。 (2)現地調査の結果、余裕高不足により橋梁架替が必要となったため増額。 (3)掘削残土に含まれる重金属の調査や処理費の増による増額。 (4)資材及び労務単価の上昇や消費税率の変更による増額。
-------------	--

III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景	● S37（1962年）年8月 浸水被害が発生（浸水家屋75戸、農地浸水75ha） ● S50（1975年）年8月 浸水被害が発生（浸水家屋69戸、農地浸水48ha） ● S56（1981年）年8月 浸水被害が発生（農地浸水2ha）				
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）	● S37（1962年）年 北見市、留辺薬町（現北見市）より道に河川改修の要望 ● S40（1965年）年4月 無加川の改修事業に着手 ● S51（1976年）年4月 支川ペンケビハウシ川の改修事業に着手 ● H1（1989年）年4月 無加川の計画区間を延伸（支川奔無加川合流点より上流区間）				
3. 事業効果を及ぼす地域・対象	● 北見市留辺薬地区などの市街地及び農地 氾濫防止面積885ha（うち農地243ha）、浸水防止家屋1,082戸				
4. 関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容

IV 事業の実施状況

(1) 事業実績及び今後の計画														
施工(工種)区分	工事内容	S40	~	H26	H27	~	R3	R4	R5	R6	~	R20	進捗状況	事業費(百万円)
築堤工	L=30,460m	←L=29,023m→					←L=189m→				←L=1,248m→		88%	1,568
掘削工	L=39,900m				L=34,809m(暫定L=16,400m)						←L=5,091m→		47%	12,749
護岸工	L=41,209m				L=35,964m						←L=5,245m→		80%	8,620
附帯工事	道路橋29橋、JR橋1橋等	←道路橋24橋、JR橋1橋等→									←道路橋5橋→		80%	5,233
測量設計費	調査・設計										←-----→		85%	5,528
用地費及補償費	用地買収・物件補償										←-----→		98%	3,647

(2) 進捗状況

下流22km区間の整備が完了。
今後の事業実施にあたっては、特に大きな支障となるものはない。

a

a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。
c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。

経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		備考
項目	R5現在	項目	R5現在	
洪水被害防止効果	225,854	建設費	137,387	●「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省水管理・国土保全局、R2(2020))に基づき算出 ●効果及び費用はR5(2023)に現在価値化し、「整備期間+完了後50年間」で算出 ●効果は、洪水氾濫における直接被害額(家屋、公共土木施設、農地等)及び間接被害額(営業停止被害等)により年平均被害軽減期待額を算出 ●費用は、現在価値化及び50年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる。
		維持管理費	164	
合計(B)	225,854	合計(C)	137,551	
B/C	前回算定年度 : H30年度(2018年度)【再評価】 前回算定時B/C : 1.17 (合計(B)110,691 (C)94,914) 変更理由 :			
R5現在	・事業費の増額に伴う費用の増加 ・治水経済調査マニュアルの改定に伴う便益算定方法の見直しによる効果の増加 ・効果及び費用をR5(2023)に現在価値化したことなどによる。			
	1.64			

取組の項目	取組内容	縮減額(百万円)
計画・設計の最適化	ブロック護岸から植生タイプ護岸への変更	20
施工の最適化	工事で発生したコンクリート殻のごかマット等の中詰材への再利用	6

V 評価

1. 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業は、北見市留辺蘂地区などの市街地及び農地の浸水被害を防止するためのもの。 ● 事業着手後もH24年(2012年)7月(農地0.2ha)、H28年8月(家屋45戸、農地20ha)に浸水被害が発生。 ● 事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。
--------	---

a

a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。
b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。
c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。

2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 魚類などに配慮し、現況河床や現況河岸を極力保全している。 ● 河畔林を極力保全している。 ※直近の評価以降の状況変化はない。
	(2) 事業推進に対する地域の動向・意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 北見市から事業の早期完成に向けての要望が出されている。 ※直近の評価以降の状況変化はない。
	(3) その他の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 特になし ※直近の評価以降の状況変化はない。

3. 事業達成の見込み	事業の必要性に変化はないほか、推進する上での課題等もない。前回評価から事業が順調に進捗しており、予定年度での事業達成が見込まれる。
a	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。

4. 対処方針	事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和20年度(2038年度)の完成を目指し、事業継続する。				
a	a: 継続 b: 終了 c: 休止 d: 中止				
事業期間変更の有無	無	事業内容変更の有無	有	総事業費変更の有無	有

VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価 : 再評価 : 平成30 (2018) 年度評価 評価結果 : 継続 (変更なし) B/C=1.17
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

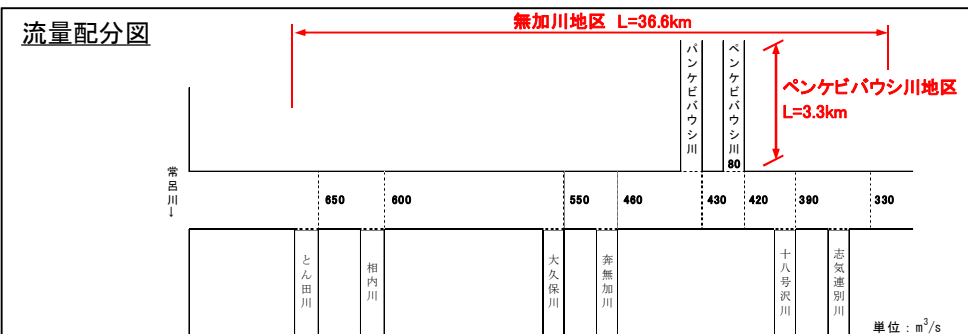
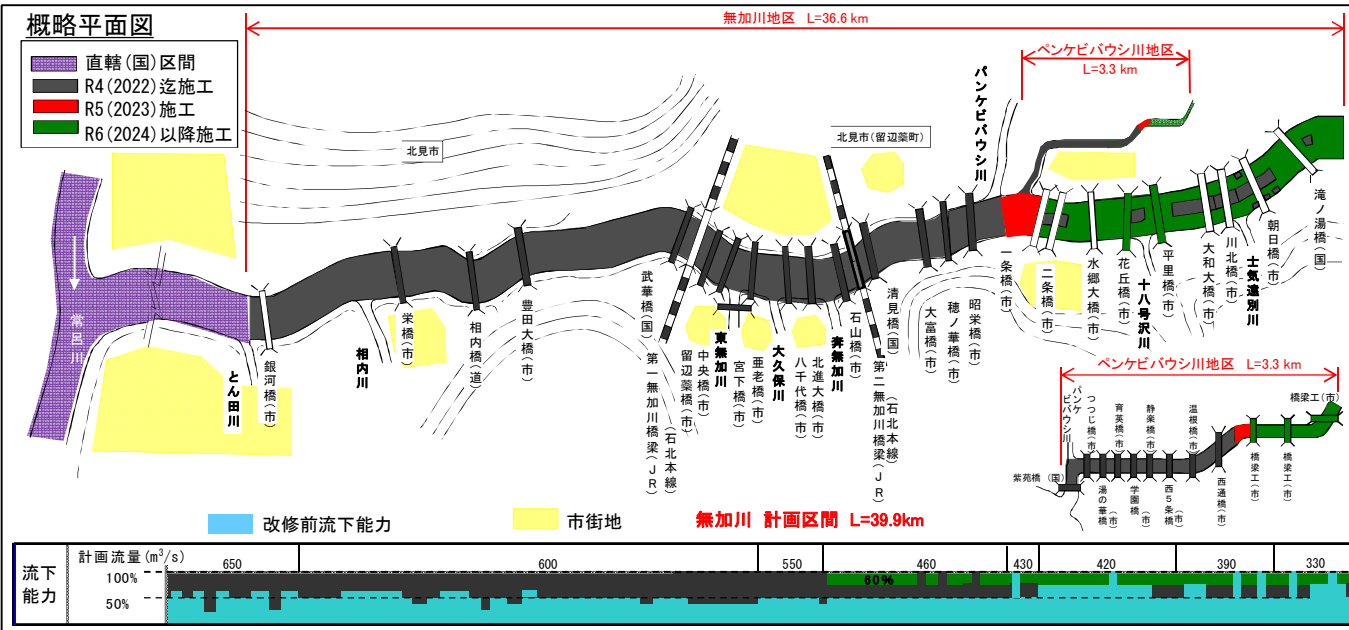
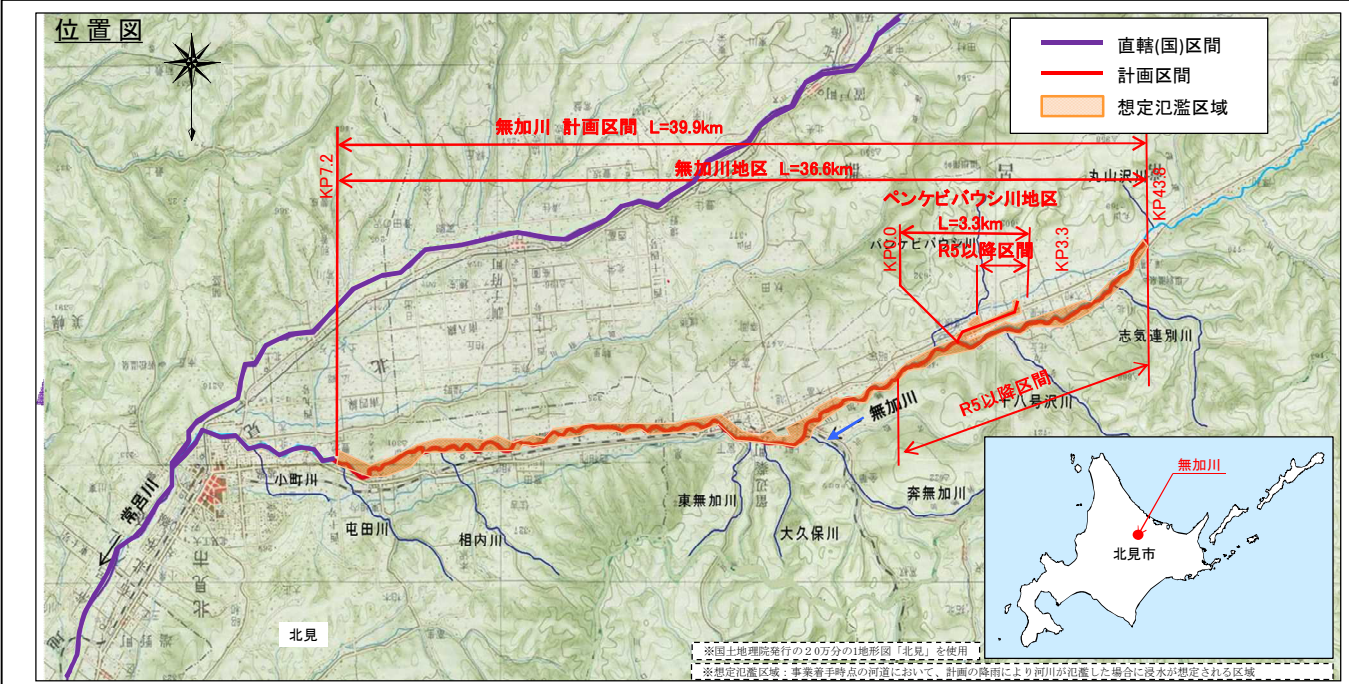
補足資料

VII 事業計画変更

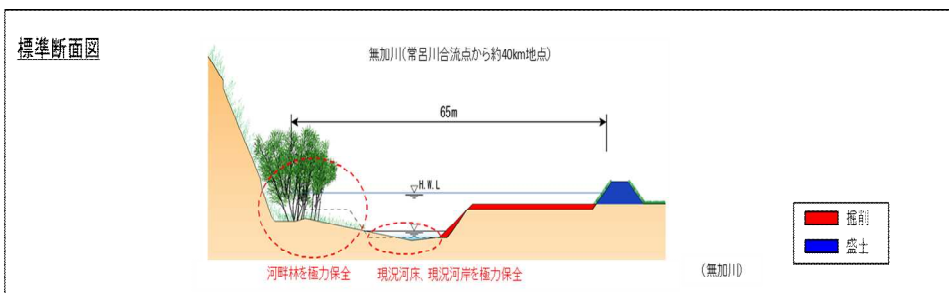
(単位: 百万円)

事業経過							経過年数	事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定		総事業費 (a)	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価又は当初		S40 (1965)	S40 (1965)			H30 (2018)	58	22,313			
変更①	1回目			H15 (2003)	H15 (2003)	H30 (2018)		23,622			
変更②	2回目			H20 (2013)	H25 (2013)	H35 (2023)		23,622			
変更③					H26 (2014)	H35 (2023)		24,180			
変更④	3回目			H30 (2018)	H30 (2018)	H50 (2038)		28,641			
変更⑤	4回目			R5 (2023)	R5 (2023)	R20 (2038)		37,345	1,014	26,775	72%
変更⑥											
変更⑦											
変更⑧											
変更⑨											
変更⑩											
変更理由・内容	変更①: 平成10年、13年洪水による河岸侵食箇所の護岸工等の増。 変更②: 事業期間の延伸~ 国道橋架替における関係機関との協議に時間を要したことのほか、残事業の施工期間を精査したことによる。 変更③: 事業費の増 ~ 国道橋の上部工形式の変更などによる。 変更④: 事業費の増 ~ 掘削土に含まれる重金属の調査や処理費の増、資材、労務単価の上昇などによる。 変更⑤: 事業費の増 ~ 事業期間の延伸~ 事業費の増額に伴い残事業の施工期間を精査したことによる。 変更⑤: 事業費の増 ~ 河床低下に伴う床止め・覆礫等対策及び護岸の根入れ長の変更による増額。現地調査の結果、余裕高不足により橋梁架替が必要となったため増額。掘削残土に含まれる重金属の調査や処理費の増による増額。資材及び労務単価の上昇や消費税率の変更による増額。										

事業名	大規模特定河川事業費 広域河川改修事業費 (社会資本整備総合交付金)	地区名	無加川	採択年度	S40 (1965)
-----	--	-----	-----	------	---------------



河川名	無加川	ペンケビバウシ川
流域面積 (km ²)	558.5	10.5
計画延長 (km)	36.6	3.3
氾濫面積 (ha)	884.7	
計画雨量	142 mm/24hr	40 mm/hr
計画高水流量 (m ³ /s)	650	80
計画勾配	1/250~1/90	1/170~1/40



浸水被害の様子 (平成28年9月1日撮影)